

学校給食における 食物アレルギー等対応マニュアル

令和5年4月

足立区教育委員会 学務課

目 次

I 対応に向けた確認・準備

1 食物アレルギーの基本的な考え方	1
2 対応可否の判断基準	1
3 対応方法	1

II 対応方法の検討～決定

1 校内食物アレルギー対応検討委員会	3
2 対応開始までの流れ	6
3 保護者への配付書類	7
4 保護者との面談	7

III 除去食の提供

1 毎月の対応内容の確認	9
2 給食提供までの確認	9
3 教室での注意点	1 3

IV 事故発生時の対応

1 児童生徒への対応	1 4
2 事故発生時の報告	1 4

V その他

1 宗教・疾病対応について	1 5
2 飲用牛乳代（給食費）の返還について	1 5
3 文部科学省 アレルギー疾患関係資料	1 5
4 資料・様式一覧	1 5
5 関係書類の保存年限	1 7

I. 対応に向けた確認・準備

1 学校給食における食物アレルギー対応の基本的な考え方

平成27年3月に文部科学省が策定した「学校給食における食物アレルギー対応指針」及び公益財団法人日本学校保健会が作成した「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」(令和元年度改訂)を基本とし対応するものとする。

- (1) 安全性を最優先し、給食を提供する。
- (2) 原因食物の完全除去(提供するかしないか)を原則とし、代替食は行わない。
- (3) 医師の診断による「学校生活管理指導表」の提出を必須とする。
- (4) 学校における校内アレルギー対応検討委員会等で組織的に行う。

学校給食における食物アレルギー対応指針 <平成27年3月 文部科学省> より

学校給食における食物アレルギー対応の大原則

- 食物アレルギーを有する児童生徒にも、給食を提供する。そのためにも、安全性を最優先とする。
- 食物アレルギー対応検討委員会等により組織的に行う。
- 「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」に基づき、医師の診断による「学校生活管理指導表」の提出を必須とする。
- 安全確保のため、原因食物の完全除去対応(提供するかしないか)を原則とする。
- 学校及び調理場の施設設備、人員等を鑑み無理な(過度に複雑な)対応は行わない。
- 教育委員会は食物アレルギー対応について一定の方針を示すとともに、各学校の取組を支援する。

2 対応可否の判断基準

- (1) 医師により食物アレルギーと診断され、「学校生活管理指導票」様式5が提出されていること。
- (2) 家庭の食事においても食物アレルギーに対する配慮(原因食物の除去等)がされていること。
- (3) 対応数の増減があったとしても、年間を通して安全に調理できる範囲であること。過度に複雑な対応は行わない。

3 対応方法

- (1) 除去食の提供、弁当持参

児童生徒の状態や学校の規模、調理室の状況等を考慮し、「除去食の提供」又は「弁当持参」とする。

ア 除去食の提供

毎月、除去対応を記載した「除去食確認書」を作成し、対象児童生徒の保護者が確認してから、原因食物を除去して提供する。

1つの料理につき除去食は1種類とするため、個々の状況に合わせてそれぞれの除去食を作るの

ではなく、該当原因食物のすべてを除去した除去食とする。

イ 完全弁当・一部弁当の持参

以下の（ア）～（オ）に該当する場合は、代わりとなる完全弁当・一部弁当を家庭から持参してもらう。医師の診断の下、家庭で原因食物を少量ずつ食べている場合等でも、持参する完全弁当・一部弁当は、原因食物を完全に含まないものとしてもらう。

（ア）原因食物を除去すると料理として成立しない場合

（イ）原因食物の種類が多く、調理が複雑になる場合

（ウ）微量混入不可の場合

医師から下述の微量混入不可と診断された場合は、重篤なアレルギーであり、安全な給食提供は困難であるため、毎日、家庭からの完全弁当を持参とする。

①右記の調味料・だし・添加物等の除去が必要な場合

②同一工場や製造ラインで原因食物を使用している加工食品が食べられない場合

③原材料の採取方法や捕食していることによる表示がある食品が食べられない場合

（エ）揚げ油が共用不可の場合

揚げ油の共用ができない場合は安全な給食提供が困難なため、該当の日は家庭からの一部弁当を持参とする。

（オ）施設の整備状況や人員等の体制が整っていない場合

ウ 弁当の保管

持参した完全弁当・一部弁当は、本人が保管するか、予め校内で決めた場所に常温保管し、手を加えずに提供する（電子レンジによる加熱も行わない）。そのため、持参する完全弁当・一部弁当は、保冷剤の利用等で常温保存できる傷みにくい献立にしてもらう。

また、給食室（休憩室含む）での保管は行わない。

エ 毎日「おかわり」禁止

除去対応をする場合は、誤食を防ぐため、毎日、給食において「おかわり」は行わない。

（参考：24足教学字第2405号 **資料1**）

（2）面談

入学・転入時や新規発症など新たに除去対応を開始する際は、校長又は副校長、担任、養護教諭及び栄養士が保護者と面談をし、原因食物及びその対応を確認する。

経過により指示内容が変更されることもあるため、継続の場合でも年1回（進級時）は、「学校生活管理指導表」**様式5**の提出を求め、新入生対応で繁忙となる前（3月中）に面談を実施する。なお、継続の場合の面談は校内の参加者を2名以上とする。

（3）食物負荷試験受診への助言

不必要に食材を除去することは児童生徒の成長の妨げになるので、幼児期から食べたことの無い食材や年齢と共に有症率が下がる原因食物（卵・牛乳等）は、医療機関において食物負荷試験を受けることを勧める。

（4）自己除去

自己管理であるため給食での除去対応はしないが、万が一の不測の事態に備えて、原因食物を学校で把握しておく。

原因食物	除去する必要がない 調味料・だし・添加物等
鶏卵	卵殻カルシウム
牛乳	乳糖、乳清焼成カルシウム
小麦	しょうゆ・酢・みそ
大豆	大豆油・しょうゆ・みそ
ゴマ	ゴマ油
魚類	だし・魚しょう
肉類	エキス

※文部科学省「学校給食における食物アレルギー対応指針」より抜粋

Ⅱ. 対応方法の検討～決定

1 校内アレルギー対応検討委員会

学校長を責任者とし、副校長、教諭、養護教諭、給食主任、栄養士等で構成する「**校内アレルギー対応検討委員会**」（以下「検討委員会」という）において、必要な対応を協議・決定する。

（１）「検討委員会」の役割

- ・ 児童生徒の食物アレルギー情報の集約
- ・ 学校状況に応じた対応方針の決定
- ・ 個別の対応プランの決定と全教職員への周知
- ・ 緊急時対応訓練や研修会の開催（エピペン実技研修を含む）
- ・ 事故及びヒヤリハット事例の情報共有、再発防止策の検討と全教職員への周知

（２）「検討委員会」における検討・確認事項

対象児童生徒の食物アレルギー情報の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ アナフィラキシーの有無、既往歴 ・ 原因食物、症状 ・ 内服薬、エピペン持参の有無、保管方法 ・ 学校生活上の留意点 ・ 弁当持参の有無、受取、保管、提供方法 ・ 「除去食確認書」の内容確認
対象児童生徒の除去対応の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ 献立および「除去食確認書」の保護者への配付 ・ 保護者からの回収（保護者確認印のチェック・催促等） ・ 校内の決裁（除去対応の確定）
除去食が対象児童生徒に渡るまでの流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除去食の調理、提供方法、認識者及び確認方法
教室での除去食内容の確認方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「除去食確認書」の保管・掲示場所 ・ お盆の色分け ・ 食札 ・ 配膳の順番 ・ 「除去食確認書」を用いた対象児童生徒との最終確認の方法
担当者（担任・栄養士等）が不在時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年主任等への協力依頼 ・ クラス内の周知
緊急時対応の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ アレルギー症状発症時の対応、校内役割分担 ・ アナフィラキシー症状発症時の対応、校内役割分担 ・ 緊急時連絡先（保護者、医療機関）

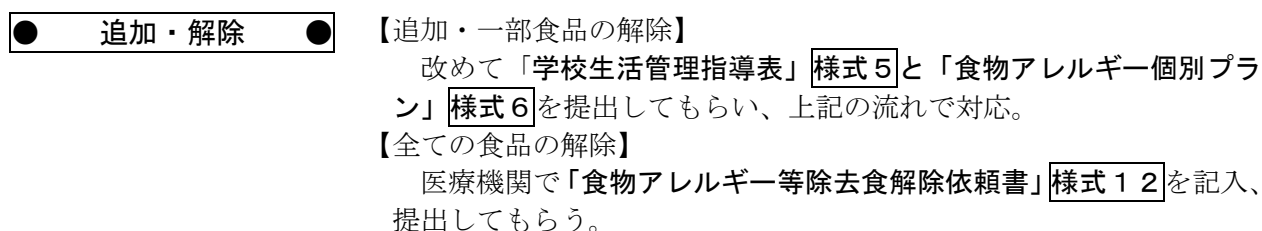
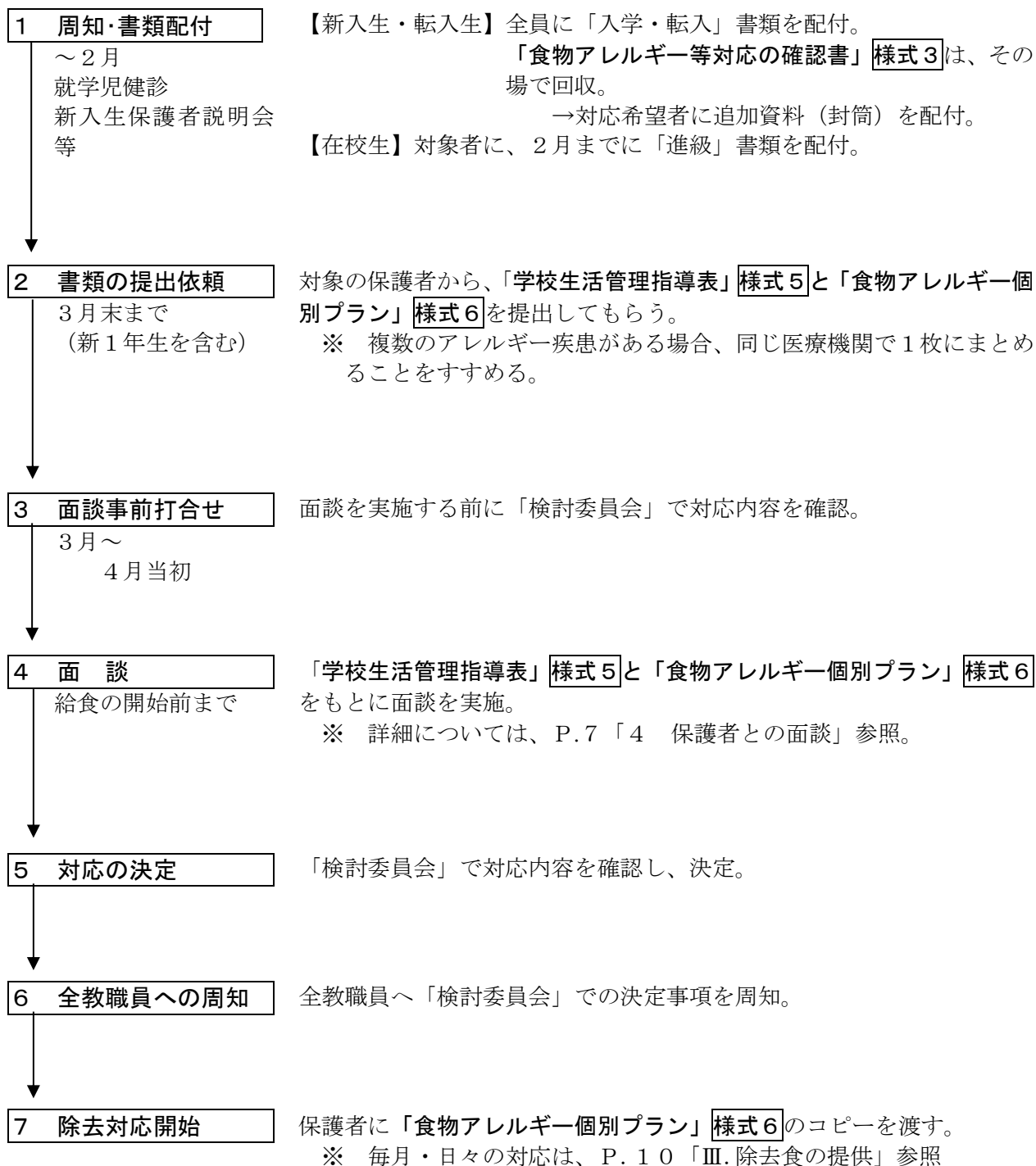
（３）食物アレルギー対応における教職員の役割（例）

校長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全教職員の共通理解がもてるように指導する。 ○ 保護者との面談時、基本的な考え方等を説明する。 ○ 検討委員会を年度当初に立ち上げる ○ マニュアルに照らし、検討委員会で協議の上、対応を決定する。 ○ 緊急事故発生時のマニュアルを作成し、全教職員で把握をする。
----	--

副校長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者・関係教職員との連絡調整をおこなう。 ○ 検討委員会の開催の調整をおこなう。
学級担任	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者との面談時、児童生徒の実態、保護者の要望等を確認しておく。 ○ 保護者からの連絡をすぐに関係職員へ伝え、連携を密にしておく。（欠席状況含む） ○ 食物アレルギーに対しての正しい認識を持ち、他の児童生徒にも食物アレルギーについて伝える機会をつくり、安全で楽しい給食時間を過ごすことができるように十分配慮する。 ○ 毎朝、「除去食確認書」を確認し、除去食の提供や弁当持参の有無を確認する。 ○ 完全弁当・一部弁当の持参がある場合は、登校時に持参の有無を確認する ○ 配膳時の微量混入を防ぐため、対象児童生徒の給食は一番最初に盛り付けるように配慮する。 ○ 対象児童生徒が誤食をすることがないように、除去食の「へらし」は行わず、全ての給食において「おかわり」は行わないように指導する。 ○ 給食喫食時まで、除去食の覆い（ラップ等）や表示物をはずさないよう指導し、教室全体で周知する。 ○ 栄養士から渡された確認済みの「除去食確認書」を教室内のすぐに取り出せる場所に保管または掲示し、不在時でも他の教員がわかるように周知する。 ○ <u>毎日、給食喫食前に対象児童生徒と「除去食確認書」で「声出し・指さし」確認してから喫食させる。</u> ○ 食物を扱う授業や学習活動（調理実習、牛乳パックのリサイクル体験、豆まき、そば打ち等）の際に、対象児童生徒が原因となる食品を食べたり触れたりしないように注意する。
養護教諭	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「保健調査票」により全校児童生徒の食物アレルギーの有無を確認する。 ○ アレルギー対応児童生徒の状況を把握する（「学校生活管理指導表」の内容確認）。 <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー原因食物 ・アレルギーの症状 ・主治医の指示内容 ・アレルギー症状が出る量や調理形態、健康状態 ・緊急時対応や連絡先 ○ 食物アレルギーについての知識や対応について周知を図る。 ○ 学級担任に該当児童生徒の食物アレルギー症状の情報を提供する。 ○ 栄養士に給食で除去食対応している児童生徒について情報を提供する。 ○ 食物アレルギー反応がでた際の措置方法を確認しておく。 ○ 主治医、学校医と連携を図る。 ○ 緊急時の連絡体制作りをする。
給食主任	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食物アレルギーのある児童生徒の実態を把握し、教職員の共通理解を図るようにする。 ○ 児童生徒の実態、保護者の要望等を確認しておく。 ○ 緊急時の対応、連絡先を確認しておく。
栄養士	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者との面談時、アレルギー原因食物や症状、家庭での除去の状況を把握する。 ○ 給食でどのような対応ができるかを判断し、検討委員会へ報告する。 ○ 保護者へ「除去食確認書」と「アレルギー用除去チェック表（給食の食材が詳細に明記された献立表）」を配付し、除去・持参について確認後返却してもらう。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 返却された「除去食確認書」を校長と確認し、担任、職員室、調理員、保護者用に複写を渡す。 ○ 献立作成時や作業工程を検討する際に、アレルギー原因食物に注意を払うとともに、混入・取り違い等がおこらないようにする。 ○ 給食時の指導について学級担任に状況を伝え、対応についてアドバイスする。 ○ アレルギー原因食物を除去したことにもなう栄養不足が懸念される場合は、家庭での食事で不足分を補うよう面談時等でアドバイスする。
調理員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 除去が必要な食材と除去する料理の確認をする。 ○ 「除去食確認書」「調理室手配表」をもとに、「提供チェック表」や除去対応を含めた「作業工程表」「作業動線図」を作成する。 ○ 作業中にアレルギー原因食物が混入しないように注意する。 ○ 「提供チェック表」を利用し、除去食が確実に対象児童生徒に渡るようにする。

2 対応開始までの流れ



3 保護者への配付書類

書類名	入学・転入	進級 新規発症	追加・ 一部解除	完全解除
	【全員配付】	【対象者のみ配付】		
様式1 学校給食における食物アレルギー等の対応について	○	○	—	—
様式2 受診時に確認が必要な食材（例）	○	○	○	—
様式3 食物アレルギー等対応の確認書	○	—	—	—
様式4 食物アレルギー除去食の対応までの流れについて	※1	○	—	—
様式5 学校生活管理指導表 活用のしおり～主治医用～	※1	○	○	—
様式6 食物アレルギー個別プラン	※1	○	○	—
様式12 食物アレルギー等除去食解除依頼書	—	※2	—	○

※1 「食物アレルギー等対応の確認書」様式3で対応を希望した場合に追加配付する。

※2 進級時に全ての食品が解除になりそうな場合は、事前に申し出てもらい、「食物アレルギー等除去食解除依頼書」様式12を配付し、記入してもらう。

「学校生活管理指導表」様式5は、アレルギー疾患のある児童生徒を把握するため、学校給食での食物アレルギー対応に限らず、学校での取り組みを希望する場合、保護者に提出してもらいます。

参照：「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」（令和元年度改訂）P. 11

重要 管理指導表活用のポイント

4 保護者との面談

（1）実施時期、参加者

	実施時期	校内の参加者
新入生 転入生	<u>給食開始前までに実施</u> （例）入学式後	<u>4名以上</u> （校長又は副校長、担任、養護教諭、栄養士）
在校生	<u>3月中</u> （3月以前含む）に実施	<u>2名以上</u> （養護教諭、栄養士等）

※ 対応理由など、保護者に十分説明すること。

※ 継続者の面談は3月中に実施することが望ましいが、対応人数が多い場合や学校及び保護者との面談日の調整が難しい場合は、遅くとも給食開始前までに実施すること。

※ 人事異動等で4月以降に再度確認が必要な場合は、保護者に説明の上、面接を再度実施してもよいこととする。

（2）必要書類

- ① 「学校生活管理指導表」様式5
- ② 「食物アレルギー個別プラン」様式6

(3) 保護者に確認する内容

- ① アナフィラキシーの経験の有無
- ② アレルギー原因食物を喫食したときの症状、発症時の対応
- ③ アレルギー原因食物
- ④ 学校に携帯する薬剤（内服薬、エピペン）の有無
持参する場合の保管場所や取り扱い等
- ⑤ 緊急時の対応方法（主治医、緊急連絡先等含む）
- ⑥ 学校生活上の留意点（給食、授業・活動、体育・部活動、校外活動等）

(4) 保護者に説明する事項

- ① 「除去食の提供」又は「完全弁当・一部弁当の持参」となること。給食における調理方法や状況について説明する。

【参考】アレルギー対応の種類

- ・除去食の提供：アレルギー原因食物を除去した給食を提供する。
- ・完全弁当持参：給食提供が困難な場合は、家庭からすべて弁当を持参してもらう。
- ・一部弁当持参：当該食材が料理の中心的食材であり、除去食の提供が困難な場合は、その料理のみ部分的に家庭から持参してもらう。

- ② 1つの料理につき、除去食の調理は1種類とするため、校内のアレルギー対応状況によっては、アレルギー原因食物以外も除去される場合があること。
(例) 卵アレルギーの対応者とエビアレルギーの対応者が1人ずついた場合、中華丼の時は「卵とエビ」を除去した除去食を提供する。
- ③ しょうゆ・みそ等の一部調味料・だし・添加物など微量でも除去が必要な場合や、同一工場や製造ラインでアレルギー原因食物を使用している加工食品が食べられない場合、原材料の採取方法や捕食していることによる表示がある食品が食べられない場合は、重篤なアレルギーであり、安全な給食提供は困難である。医師から上述の微量混入不可と診断された場合は、毎日、家庭からの完全弁当の持参を依頼すること。
- ④ 揚げ油の共用ができない場合は安全な給食提供が困難であり、該当の日は家庭からの一部弁当の持参を依頼すること。
- ⑤ 医師の診断の下、家庭でアレルギー原因食物を少量ずつ食べている場合等でも、持参する完全弁当・一部弁当は、アレルギー原因食物を完全に含まないものとすること。
- ⑥ 弁当の持参を依頼する際の具体的な献立を提示し、保管場所や取り扱いについて確認する。また、常温で保管するため、保冷剤を入れるなど衛生面・安全面に十分注意して持たせることを説明する。
- ⑦ 受け渡しや確認方法について説明する。
- ⑧ 除去食はラップで覆い食札を付け、緑色のおぼんで提供し、一番最初に配膳を行うこと。
- ⑨ 当日の対応の有無に関わらず、全ての日において「おかわり」は行わないこと（担任不在時の安全確保、配膳器具の取り違え等による誤食防止のため）。
- ⑩ 毎月、「除去食確認書」様式9と「アレルギー用除去チェック表」の配付があり、給食使用食材や除去・持参等の対応内容について保護者の確認作業があること。
- ⑪ 対応児童生徒の増加などの校内状況によっては、安全性を考慮し、年度途中で対応方法を変更する可能性があること。

- ⑫ 対応以外の食物で発症した場合、医療機関で原因が特定できるまでは完全弁当の持参をお願いすること。
- ⑬ アレルギー原因食物の種類が増減した場合は「学校生活管理指導表」様式5の再提出と面談の必要があること。少なくとも年に1回は「学校生活管理指導表」様式5の提出と面談の実施が必要であること。
- ⑭ 食物アレルギー対応を中止する場合には、「食物アレルギー等除去食解除依頼書」様式12の提出が必要になること。
- ⑮ 該当児童生徒の食物アレルギーに関する情報は、学校内（教職員、及び学級内の児童生徒）や関係機関で共有すること。

Ⅲ. 除去食の提供

1 毎月の対応内容の確認

- (1) 使用食材がわかる詳細な献立表（アレルギー用除去チェック表）と「除去食確認書」様式9を用いて、1か月分全ての献立について、具体的な対応内容を保護者と確認する。
- (2) 保護者確認後の「除去食確認書」様式9は、関係者全員で共有する。

時期	内容	対応者	備考
前月中旬	①翌月分の関係書類の作成 ・「除去食確認書」1部 ・アレルギー用除去チェック表（1か月分全て）1部	栄養士	・加工食品は、必ず原材料表を取り寄せて確認をする。
前月25日頃	②関係書類を保護者へ配付	学校 →保護者	・「除去食確認書」を手書きしている場合は、控えをとっておくこと。
前月末まで	③関係書類の内容確認 保護者が「除去食確認書」に押印後、学校へ提出する。	保護者 →学校	
〃	④返却後の「除去食確認書」の確認 校長・栄養士で確認後、押印する。	校長 栄養士	・未提出の保護者には催促を行うとともに、保護者に訂正等が無いかな確認をする。
〃	⑤確認後の「除去食確認書」を共有 【原本】栄養士が保管 【コピー】各1部 ・担任（教室確認用） ・職員室（全職員共有用） ・調理室 ・保護者	栄養士 学校 →保護者	・担任以外の職員もわかる場所に保管又は掲示する。 ・保護者には、除去・持参内容を子どもに説明してもらう。 ・コピー配付後に変更が生じた場合、差換えまたは修正連絡を行うこと（保護者保管分含む）。

2 給食提供までの確認

- (1) 調理・盛付・セット、該当児童生徒に渡るまで、喫食前のチェック等の体制を強化する。
- (2) 喫食開始直前に、担任教諭が「除去食確認書」様式9で児童生徒と「声出し・指さし」確認してから喫食する。

時期	内容	対応者	備考
前週末まで	①作業工程等打合せ ・除去する食材が混入しないように作業手順、取り分けるタイミング等を確認し、打合せを十分に行う。	栄養士 調理員	・調理員は、事前に「調理室手配表」の食材を1つ1つ確認し、料理ごとのアレルギー原因食物を把握しておく。
前日まで	②「提供チェック表」様式10の作成 ・「調理室手配表」、「除去食確認書」をもとに、料理別の対応内容、調理から提供までの担当者を確認する。	調理員	
〃	③「提供チェック表」の確認 ・記入漏れ等がないかチェックする。	栄養士	

前日 まで	④「作業工程表」・「作業動線図」の作成 ・栄養士との打合せをもとに作成する。	調理員	
〃	⑤「作業工程表」・「作業動線図」の確認	栄養士	
当日朝 まで	⑥除去食調理準備 ・「提供チェック表」を掲示（給食室）する。 ・除去食用トレイ・食札等を準備する。	栄養士 調理員	
当日朝	⑦食物アレルギー対応を確認 ・除去食の有無、内容を確認する。 ・弁当持参の確認をする。	担任	・担任が不在の場合には、他の教職員が確認をする。
当日 調理前	⑧欠席者の報告 （確認できる範囲で可）	栄養士 →調理員	・欠席の場合でも、遅れて登校する可能性があるため、調理は行う。
〃	⑨朝礼の実施 ・調理員全員に除去食担当者、除去内容を確認する。 ・調理前に加工食品のチェックをする。	調理員	
調理中	⑩除去食の調理・表示 ・除去する食材を加える前に取分け、専用鍋・コンロで調理・盛付する。 ・ラップ等でフタをし、除去内容を記載した食札を付ける。 ・除去内容に誤りが無いか、担当調理員・栄養士で「 <u>声出し・指さし</u> 」してダブルチェックする。	担当調理員 栄養士	・食札の記載内容については「（４）食札について」参照。栄養士不在の場合には、他の調理員が「 <u>声出し・指さし</u> 」確認する。 ・普通食と同様、温度管理、保存食の採取、検食を行う。
引き渡 し時	⑪-１ 配膳台セット確認 ・クラス用の配膳台にのせている状態で調理員と栄養士が「 <u>声出し・指さし</u> 」確認し、「提供チェック表」に記録する。	担当調理員 栄養士	・直接担任に渡すことができない場合は、特に連絡体制に注意する。 ・栄養士不在の場合には、他の調理員が「 <u>声出し・指さし</u> 」確認する。
	⑪-２ 手渡し確認 ・食札の記載内容と実際の盛り付けに間違いがないか、担任と「 <u>声出し・指さし</u> 」確認してから手渡す。	担当調理員 または 栄養士 →担任	・食札の記載内容全てを必ず「 <u>声出し・指さし</u> 」確認する。 ・担任不在時は、他の教職員に渡す。 ・中学校の場合は、生徒本人に受け渡しても良い。
配膳前 喫食前	⑫給食喫食前の確認 ・「いただきます」をする前に、「除去食確認書」で当日の除去内容を児童生徒と一緒に「 <u>声出し・指さし</u> 」確認する。	担任 児童生徒	・配膳を開始する前に、本人に除去食が確実に届くようにする。 ・除去食のラップや食札等は「いただきます」をするまで外さない。 ・担任不在時は、代わりの教職員が児童生徒と共に「 <u>声出し・指さし</u> 」確認する。

※ 以上の対応が困難な場合については、他の方法を校内で検討し、結果を学務課へ報告する。

(3) 除去食の献立・形態について

盛り付け・提供時に誰が見ても確認できるように、通常食と除去食との違いが一目でわかる献立・形態にする。

調理等の工夫 (例)

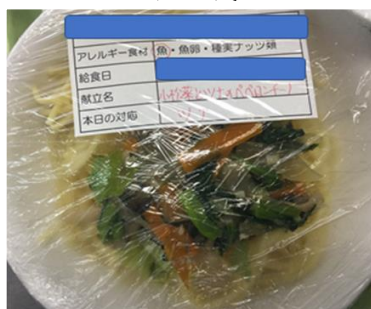
- ① 原因食品を混ぜ合わせず料理の上にのせるなど、目で見えてわかるようにする

(例) チーズ、ごま、桜エビなどを練り込まず、上にのせる。

通常食



除去食



通常食は具材をスパゲッティと和えるが、除去食は上にのせる。

- ② 原因食品の有無により、違う形、大きさにする。

(例) ・コロッケやハンバーグなどは、違う形にする。

- ・マッシュと角切りなど、切り方を変える。
- ・除去食は、魚の切り身を半分に切る。

通常食



除去食



通常食のコロッケは丸型、除去食のコロッケは三角型にする。

- ③ 除去食を個別の容器（紙皿やグラタン皿など）に入れる。

(例) 「さばのごまみそ焼き」で、ごまの除去食は紙皿に入れて焼く。

- ④ 原因食品を使用する場合は分かりやすい献立名にする。

(例) たらのアーモンドフライ、ほうれん草のくるみ和え



除去食はパラリンにのせる。

(4) 食札について

① 記載内容

盛り付け・提供時の誤配を防ぐために、食札には、以下の a～e の情報を必ず表示する。転記ミス防止のため、作成後は複数人で内容を確認する。

- a) クラス、児童生徒氏名
- b) アレルギー原因食物
- c) 料理名
- d) 当日の対応
- e) 給食日

料理名、対応が一目でわかるようする。

【除去食の提供がある場合】

1年3組	〇〇	〇〇	さん
食べられません：	えび、たまご、ししゃも		
料理名	チャーハン		
対 応	えび、たまご 除去		
給食日	12月5日(水)		

【弁当の持参がある場合】

1年3組	〇〇	〇〇	さん
食べられません：	えび、たまご、ししゃも		
料理名	焼きししゃも		
対 応	提供なし(持参あり)		
給食日	12月6日(木)		

② 使用方法

ア) 除去食の皿につける。

(お盆にのせるだけでは×)

→ 提供すべき相手に料理が確実に届く。

同じお皿に盛り付ける料理は、給食室で盛り付ける。



イ) 料理の提供が無い場合もつける。

→ 除去食の有無が明確になる。

提供がない料理も、空のお皿に食札を貼ってお盆にのせる。



紙の食札はラップをしてから食札をのせ、さらにラップをしておく。

③ 素材

提供食数に応じて、素材・作成方法を工夫する。

<素材の例>

- ・紙で作成し、使い捨て
- ・宛名シール用紙に印刷
- ・ラミネート+ペンで作成し再利用(回収方法の工夫が必要)

※個人情報のため、管理・廃棄方法等に十分注意する。

3 教室等での注意点

「除去食確認書」様式9を教室内に保管・掲示し、学級担任が不在の時でも他の教員がわかるようする。また、クラス全体で、食物アレルギーの児童生徒の基本的な情報を共有する。

(1) 給食の時間

おかわりや隣席からの手渡しなど教室内はリスクが高いことを理解し、学級担任が不在の場合は、代行の教職員に引継ぐ

また、対応食と通常食との違いを学級担任、本人が確認する方法を具体的に決める。

誤食を防ぐための確認ポイント

- ・献立内容の「声出し・指さし」確認
- ・給食当番の役割確認
- ・配膳時の注意
- ・おかわり等を含む喫食時の注意
- ・片付け時の注意
- ・その他交流給食などの注意 等



「声出し」
「指さし」
確認!!

(2) 食材・食物を扱う授業や活動等

食物アレルギーは原因食物を食べる以外に、触れたり、吸い込んだりすることでも発症するものがある。特に、食材・食物を扱う活動等について注意が必要になる

(3) 体育、部活動等運動を伴う活動

食物依存性運動誘発アナフィラキシーは食後2時間以内に起こるのが一般的である。重症化することも多いため、早めの対応を要する。

原因食物は小麦や甲殻類が多く、果物によるものも増加傾向にある。当日の児童生徒の体調も影響するため、注意が必要になる。

(4) 宿泊を伴う校外学習

宿泊先などの食事について、事前に保護者や宿泊先と情報交換を行い、どこまでの対応が可能か確認する。誤食を防ぐため、児童生徒自身にも留意点を伝えとともに、参加する教職員全員で情報を共有し、対象児童生徒の状況を把握する。

IV 事故発生時の対応

1 児童生徒への対応

誤食などのアレルギー事故が発生した場合は、学校全体で速やかに対応し、アレルギー症状がある児童生徒に対して、東京都「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」のアレルギー症状への対応の手順に沿って対応する。

※東京都発行「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」H30年3月改定版（黄色冊子）は、各学校に配付済。

2 事故発生の報告

(1) 保護者への連絡

「食物アレルギー個別プラン」様式5または「学校生活管理指導表」様式6に書かれている緊急時連絡先に連絡し、経過を説明する。その後、状況に応じて随時報告する。

(2) 医療機関への連絡

必要に応じて、「食物アレルギー個別プラン」様式5または「学校生活管理指導表」様式6に書かれている医療機関に連絡し、指示を仰ぐ。

(3) 学務課へ連絡

事故発生30分以内に、学務課へ第一報の報告を行う。その後、状況に応じて随時報告する。症状及び対応終息後、「食物アレルギー事故報告書」を提出する。

電話（3880）5975

V その他

1 宗教・疾病対応について

(1) 宗教対応

宗教により食材の除去が必要な場合は、原則として弁当持参とする。やむを得ず実施する場合は、保護者に対して、

- ①原則は行わないこと
- ②校内の食物アレルギー対応状況等により、対応を中止すること
- ③転校や進学の際はその学校での判断に従うこと

を十分に学校から説明し、「宗教対応に関する同意書」様式13を提出してもらい、学校の責任において適切に除去食対応を行う。また、転校や進学の際は事前に情報共有をする。

(2) 疾病対応

「疾病による学校給食除去対応依頼書」様式14は毎年、提出してもらい、該当児童生徒の疾病に合わせて、食物アレルギー対応を基本として対応する。

2 飲用牛乳代（給食費）の返還について

牛乳アレルギー等により対象者の飲用牛乳を事前に発注しない場合は、牛乳分の給食費を返還する。ただし、生活保護（要保護）、就学援助（準要保護）対象者における区への返還は行わない。

$$\text{返還額} = \text{飲用牛乳単価（保護者負担額、税込）} \times \text{牛乳回数（小数点以下切り捨て）}$$

3 文部科学省 アレルギー疾患関係資料

（ホームページ）http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1355536.htm

- ・学校給食における食物アレルギー対応指針
- ・学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン・要約版・研修資料（PDF）
（※公益財団法人日本学校保健会ページへリンク）
- ・学校におけるアレルギー疾患対応資料（※YouTubeのページへリンク）
- ・＜研修資料＞学校におけるアレルギー疾患対応の基本的な考え方（※YouTubeのページへリンク）
- ・＜研修資料＞食物アレルギーに関する基礎知識（※YouTubeのページへリンク）
- ・学校生活上の留意点（※YouTubeのページへリンク）
- ・緊急時の対応（※YouTubeのページへリンク）
- ・学校におけるアレルギー疾患対応資料

4 資料・様式一覧

(1) 資料

	資料名
資料1	24足教学学収第2405号 「食物アレルギーを有する児童・生徒等の学校給食における「おかわり」の対応について」
資料2	食物アレルギー対応当日のチェックポイント（担任用）
資料3	食物アレルギー緊急時対応マニュアル

(2) 様式

	様式名		使用時期	備考
様式1	学校給食における食物アレルギー等の対応について	保護者用	入学前 (就学時健診、 新入生保護者会 等) ※様式1～3 入学者全員 ※様式4～6 対応希望があつた場合	
様式2	受診時に確認が必要な食材 (例)	保護者・ 医療機関用		該当するアレルギー原因食物があるか確認してもらう。また、対応希望の場合は、医療機関受診時に持参してもらい、「学校生活管理指導表」様式5記入の参考資料として活用してもらう。
様式3	食物アレルギー等対応の確認書	保護者用		アレルギー対応の有無を入学する全児童生徒(保護者)に確認する。
様式4	食物アレルギー除去食対応までの流れについて	保護者用		
様式5	学校生活管理指導表 (アレルギー疾患用) ※「学校保健」ホームページからダウンロード可	医療機関用 (保護者に 配付)		アレルギー対応希望の場合、医療機関において診断、記載してもらい、提出してもらう。
	学校生活管理指導表(アレルギー疾患用)活用のしおり			
様式6	食物アレルギー個別プラン	保護者用		除去食対応希望時に提出してもらう。
	食物アレルギー個別プラン 記入例	教職員用		
様式7	除去食の手続きに関する書類 (新規・継続)	保護者用		②入学前(保護者説明会等)の関係書類配付時に使用する封筒へ貼付ける。
様式8-1	食物アレルギー対応一覧表 ＜記入式＞	教職員・ 調理員用	校内共有用	年度初めに、校内で情報共有する目的で作成する。記入方式、●印方式どちらでも可。変更の際は、随時更新する。
様式8-2	食物アレルギー対応一覧表 ＜●印方式＞			
様式9	除去食確認書	保護者・ 教職員用	除去食提供前	献立作成後、除去・持参等の対応内容を保護者に確認してもらう。保護者確認後、校内で情報共有する。
	除去食確認書 記入例	保護者用・ 栄養士用		
様式10	提供チェック表 ※同等の内容が記載できれば、 独自様式も可	調理員・ 栄養士用	調理時	除去食の調理から受渡しまで、正しく行われているかを記録する表。
様式11	提供チェックカレンダー (飲用牛乳用)	担任用	教室確認時	飲用牛乳が配られていないことを確認し、記録する様式。
様式12	食物アレルギー等除去食 解除依頼書	保護者	対応解除時	除去食対応がなくなつた場合、提出してもらう。
様式13	宗教対応に関する同意書	保護者	宗教対応希望の場合	やむを得ず除去食対応をする場合に提出してもらう。
様式14	疾病による学校給食除去対応依頼書	保護者	疾病での対応希望の場合	

5 関係書類の保存年限

書類名		保存年限	理由
様式 5	学校生活管理指導表	5 年	健康診断票と類似の書類と考え、保存年限を統一
様式 6	食物アレルギー個別プラン	5 年	
様式 9	除去食確認書（原本）	1 年	異動等で前年度の対応を確認することがあるため
	除去食確認書（担任用）〔コピー〕	年度末	事故等があった場合の状況確認に必要なため
	除去食確認書（職員室用）〔コピー〕	随時	
	除去食確認書（調理用）〔コピー〕	随時	
	アレルギー用除去チェック表	随時	
様式 10	提供チェック表	年度末	

資料・様式

24 足教学学収第 2405 号

平成 25 年 1 月 21 日

(公 印 省 略)

各 小 ・ 中 学 校 長 様

教育指導室長 宮澤 一則

学 務 課 長 渡 邊 昌 道

食物アレルギーを有する児童・生徒等の学校給食における
「おかわり」の対応について

日頃より学校給食事業にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、昨年 12 月 20 日に調布市富士見台小学校で、食物アレルギーを有する児童が給食後に死亡する事故はおかわりが原因でした。こうした痛ましい事故が二度と発生することがないように、足立区立小・中学校では、食物アレルギーによる給食の除去対応を受けている児童・生徒は全ての給食において今後「おかわり」の対応をしないこととします。

給食における食物アレルギーの誤食事故防止の為とご理解いただけるよう、在学の児童・生徒、新入生及びその保護者への説明をお願いいたします。

これまでも、食物アレルギーを有する児童・生徒等に対しては細心の注意を払っておられると思いますが、学校全体でアレルギー除去の誤提供・誤飲食が無いよう、改めて校内における校長、学級担任、養護教諭、栄養士、学校医及び保護者、主治医との連携を強化し、対応に努めてください。

担当：教育指導室 統括指導主事 浮津 3880-5974

学務課 学校給食係 加藤 黒川 3880-5975

食物アレルギー対応当日のチェックポイント

1 朝、今日の給食で、 除去食があるかを確認します。

除去食確認書を用いて、除去食対応があるかを確認します。対応がある場合は、対応内容・弁当の持参の有無を確認します。

除去食確認書				様式 1		
年 月 日				出席者	欠席者	出席者
年 組 氏名						
(除去食材:)						
日	曜日	献立名	給食の対応	持参 (確認書記入)	確認	
				しるし・しるし		
				しるし・しるし		
				しるし・しるし		
				しるし・しるし		
				しるし・しるし		
				しるし・しるし		

2 アレルギー対応児童は、 一番最初に配膳します。

器具の取り違い等による混入を防ぐため、対象児童・生徒は、毎日、一番最初に盛り付けます。その後は、量の調節を行いません。



3 食べる直前に、該当者と一緒に、配膳されたものが、 除去食確認書と合っているか確認します。

除去食には、クラス・氏名・アレルギー・食材・料理名・対応内容が記載されています。正しい給食が配膳されているかを、該当児童・生徒と担任で「声出し・指さし」確認します。また、代わりのお弁当を持ってきている場合、持参したものをチェックします。



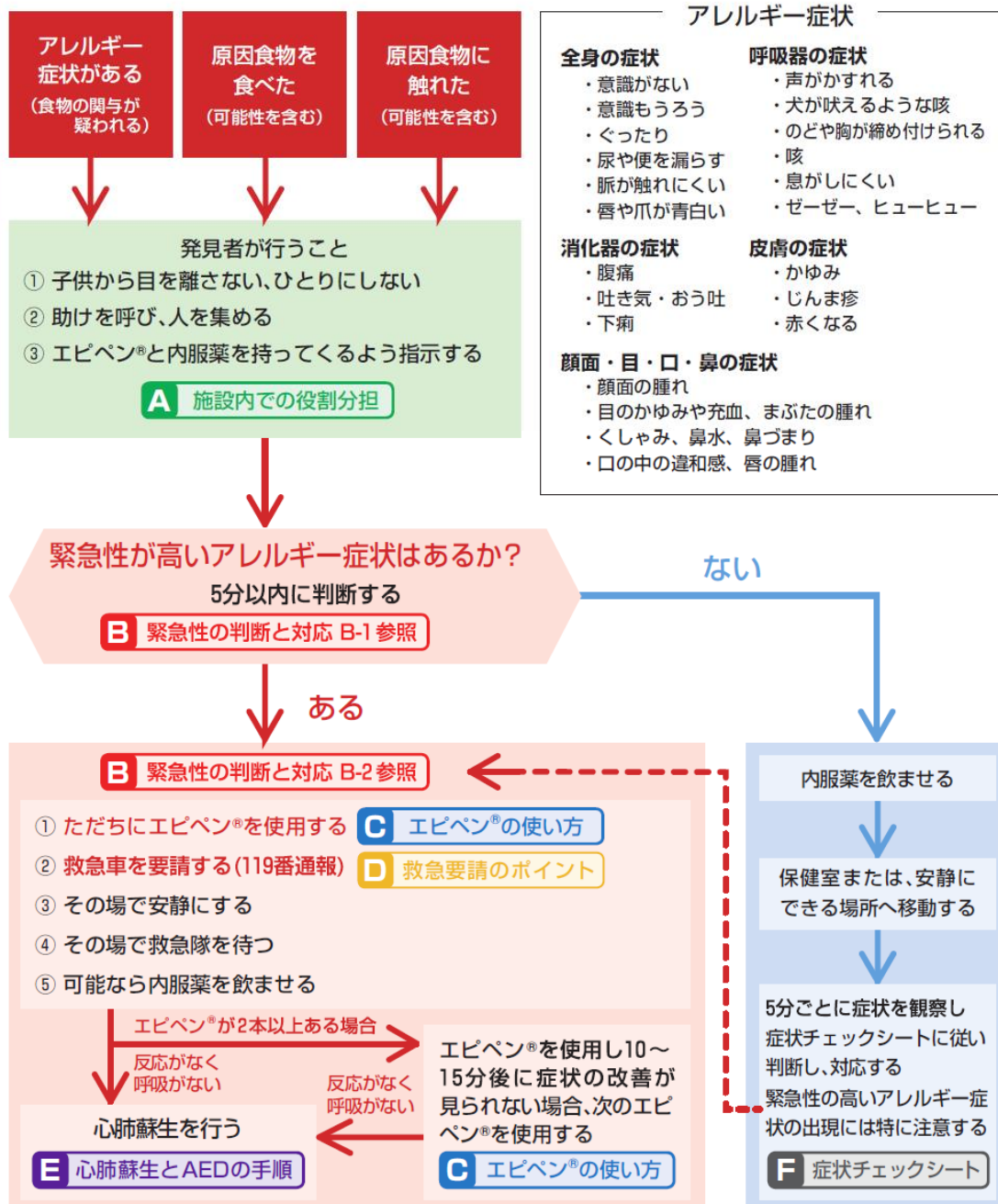
4 毎日、『おかわり』はしません。

対象児童・生徒が誤食することがないように、毎日、『おかわり』は行いません。また、除去食の『へらし』も行いません。



食物アレルギー緊急時対応マニュアル

アレルギー症状への対応の手順



2018 年 3 月版

A

施設内での役割分担

◆各々の役割分担を確認し事前にシミュレーションを行う

管理・監督者（園長・校長など）

- ☐ 現場に到着次第、リーダーとなる
- ☐ それぞれの役割の確認および指示
- ☐ エピペン[®]の使用または介助
- ☐ 心肺蘇生やAEDの使用

発見者「観察」

- ☐ 子供から離れず観察
- ☐ 助けを呼び、人を集める（大声または、他の子供に呼びに行かせる）
- ☐ 教員・職員 A、B に「準備」「連絡」を依頼
- ☐ 管理者が到着するまでリーダー代行となる
- ☐ エピペン[®]の使用または介助
- ☐ 薬の内服介助
- ☐ 心肺蘇生やAEDの使用

教員・職員 A「準備」

- ☐ 「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」を持ってくる
- ☐ エピペン[®]の準備
- ☐ AEDの準備
- ☐ 内服薬の準備
- ☐ エピペン[®]の使用または介助
- ☐ 心肺蘇生やAEDの使用

教員・職員 B「連絡」

- ☐ 救急車を要請する（119番通報）
- ☐ 管理者を呼ぶ
- ☐ 保護者への連絡
- ☐ さらに人を集める（校内放送）

教員・職員 C「記録」

- ☐ 観察を開始した時刻を記録
- ☐ エピペン[®]を使用した時刻を記録
- ☐ 内服薬を飲んだ時刻を記録
- ☐ 5分ごとに症状を記録

教員・職員 D～F「その他」

- ☐ 他の子供への対応
- ☐ 救急車の誘導
- ☐ エピペン[®]の使用または介助
- ☐ 心肺蘇生やAEDの使用

B

緊急性の判断と対応

◆アレルギー症状があったら5分以内に判断する！

◆迷ったらエピペン®を打つ！ ただちに119番通報をする！

B-1 緊急性が高いアレルギー症状

【全身の症状】

- ☐ ぐったり
- ☐ 意識もうろう
- ☐ 尿や便を漏らす
- ☐ 脈が触れにくいまたは不規則
- ☐ 唇や爪が青白い

【呼吸器の症状】

- ☐ のどや胸が締め付けられる
- ☐ 声がかすれる
- ☐ 犬が吠えるような咳
- ☐ 息がしにくい
- ☐ 持続する強い咳き込み
- ☐ ゼーゼーする呼吸
(ぜん息発作と区別できない場合を含む)

【消化器の症状】

- ☐ 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み
- ☐ 繰り返し吐き続ける

1つでもあてはまる場合

ない場合

B-2 緊急性が高いアレルギー症状への対応

① ただちにエピペン®を使用する！

→ **C** エピペン®の使い方

② 救急車を要請する(119番通報)

→ **D** 救急要請のポイント

③ その場で安静にする(下記の体位を参照)

立たせたり、歩かせたりしない！

④ その場で救急隊を待つ

⑤ 可能なら内服薬を飲ませる

◆ エピペン®を使用し10～15分後に症状の改善が見られない場合は、次のエピペン®を使用する(2本以上ある場合)

◆ 反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う → **E** 心肺蘇生とAEDの手順

内服薬を飲ませる

↓
保健室または、安静にできる場所へ移動する

↓
5分ごとに症状を観察し症状チェックシートに従い判断し、対応する
緊急性の高いアレルギー症状の出現には特に注意する

F 症状チェックシート

安静を保つ体位

ぐったり、意識もうろうの場合



血圧が低下している可能性があるため仰向けで足を15～30cm高くする

吐き気、おう吐がある場合



おう吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

呼吸が苦しく仰向けになれない場合



呼吸を楽にするため、上半身を起こし後ろに寄りかからせる

C

エピペン[®]の使い方

◆それぞれの動作を声に出し、確認しながら行う

① ケースから取り出す



ケースのカバーキャップを開け
エピペン[®]を取り出す

② しっかり握る



オレンジ色のニードルカバーを
下に向け、利き手で持つ

“グー”で握る！

③ 安全キャップを外す



青い安全キャップを外す

④ 太ももに注射する



太ももの外側に、エピペン[®]の先端
(オレンジ色の部分)を軽くあて、
“カチッ”と音がするまで強く押し
あてそのまま5つ数える

注射した後すぐに抜かない！
押しつけたまま5つ数える！

⑤ 確認する



使用前 使用後

エピペン[®]を太ももから離しオレ
ンジ色のニードルカバーが伸び
ているか確認する

伸びていない場合は「④に戻る」

⑥ マッサージする



打った部位を10秒間、
マッサージする

介助者がいる場合



介助者は、子供の太ももの付け根と膝を
しっかり抑え、動かないように固定する

注射する部位

- ・衣類の上から、打つことができる
- ・太ももの付け根と膝の中央部で、かつ
真ん中 (A) よりやや外側に注射する

仰向けの場合



座位の場合



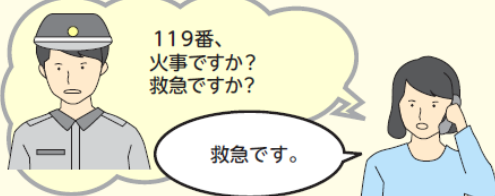
D

救急要請（119番通報）のポイント

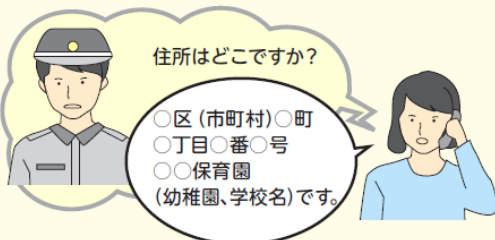
◆あわてず、ゆっくり、正確に情報を伝える



①救急であることを伝える

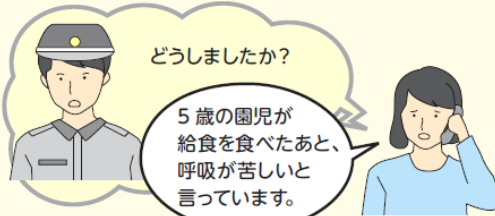


②救急車に来てほしい住所を伝える



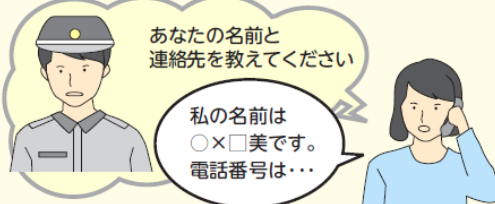
住所、施設名をあらかじめ記載しておく

③「いつ、だれが、どうして、現在どのような状態なのか」をわかる範囲で伝える



エピペン®の処方やエピペン®の使用の有無を伝える

④通報している人の氏名と連絡先を伝える



119番通報後も連絡可能な電話番号を伝える

※向かっている救急隊から、その後の状態確認等のため電話がかかってくることもある

- 通報時に伝えた連絡先の電話は、常につながるようにしておく
- その際、救急隊が到着するまでの応急手当の方法などを必要に応じて聞く

E

心肺蘇生とAEDの手順

◆強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！

◆救急隊に引き継ぐまで、または子供に普段通りの呼吸や目的のある仕草が認められるまで心肺蘇生を続ける

①反応の確認

肩を叩いて大声で呼びかける
乳幼児では足の裏を叩いて呼びかける

反応がない

②通報

119番通報とAEDの手配を頼む

③呼吸の確認

10秒以内に胸とお腹の動きを見る

普段通りの呼吸をしていない

※普段通りの呼吸をしている
ようなら、観察を続けながら
救急隊の到着を待つ

④必ず胸骨圧迫！可能なら人工呼吸！

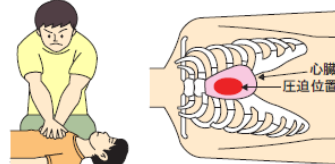
30:2

ただちに胸骨圧迫を開始する
人工呼吸の準備ができ次第、可能なら人工呼吸を行う

⑤AEDのメッセージに従う

電源ボタンを押す
パッドを貼り、AEDの自動解析に従う

【胸骨圧迫のポイント】



- ◎強く（胸の厚さの約1/3）
- ◎速く（100～120回/分）
- ◎絶え間なく（中断を最小限にする）
- ◎圧迫する位置は「胸の真ん中」

【人工呼吸のポイント】



- 息を吹きこむ際
- ◎約1秒かけて
- ◎胸の上がりが見える程度

【AED装着のポイント】



- ◎電極パッドを貼り付ける時も、できるだけ胸骨圧迫を継続する
- ◎電極パッドを貼る位置が汗などで濡れていたらタオル等でふき取る
- ◎6歳くらいまでは小児用電極パッドを貼る。なければ成人用電極パッドで代用する

【心電図解析のポイント】



- ◎心電図解析中は、子供に触れないように周囲に声をかける

【ショックのポイント】



- ◎誰も子供に触れていないことを確認したら、点滅しているショックボタンを押す

F

症状チェックシート

◆症状は急激に変化することがあるため、5分ごとに、注意深く症状を観察する

◆ の症状が1つでもあてはまる場合、エピペン[®]を使用する

(内服薬を飲んだ後にエピペン[®]を使用しても問題ない)

観察を開始した時刻(時 分) 内服した時刻(時 分) エピペン[®]を使用した時刻(時 分)

全身の
症状

- ☐ ぐったり
- ☐ 意識もうろう
- ☐ 尿や便を漏らす
- ☐ 脈が触れにくいまたは不規則
- ☐ 唇や爪が青白い

呼吸器
の症状

- ☐ のどや胸が締め付けられる
- ☐ 声がかすれる
- ☐ 犬が吠えるような咳
- ☐ 息がしにくい
- ☐ 持続する強い咳き込み
- ☐ ゼーゼーする呼吸

- ☐ 数回の軽い咳

消化器
の症状

- ☐ 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み
- ☐ 繰り返し吐き続ける

- ☐ 中等度のお腹の痛み
- ☐ 1～2回のおう吐
- ☐ 1～2回の下痢

- ☐ 軽いお腹の痛み(がまんできる)
- ☐ 吐き気

目・口・
鼻・顔面
の症状

- ☐ 顔全体の腫れ
- ☐ まぶたの腫れ

- ☐ 目のかゆみ、充血
- ☐ 口の中の違和感、唇の腫れ
- ☐ くしゃみ、鼻水、鼻づまり

皮膚の
症状

- ☐ 強いかゆみ
- ☐ 全身に広がるじんま疹
- ☐ 全身が真っ赤

- ☐ 軽度のかゆみ
- ☐ 数個のじんま疹
- ☐ 部分的な赤み

上記の症状が
1つでもあてはまる場合

1つでもあてはまる場合

1つでもあてはまる場合

- ①ただちにエピペン[®]を使用する
- ②救急車を要請する(119番通報)
- ③その場で安静を保つ
(立たせたり、歩かせたりしない)
- ④その場で救急隊を待つ
- ⑤可能なら内服薬を飲ませる

B 緊急性の判断と対応 B-2参照

ただちに救急車で
医療機関へ搬送

- ①内服薬を飲ませ、エピペン[®]を準備する
- ②速やかに医療機関を受診する
(救急車の要請も考慮)
- ③医療機関に到着するまで、
5分ごとに症状の変化を観察し、 の症状が1つでもあてはまる場合、エピペン[®]を使用する

速やかに
医療機関を受診

- ①内服薬を飲ませる
- ②少なくとも1時間は5分ごとに症状の変化を観察し、症状の改善がみられない場合は医療機関を受診する

安静にし、
注意深く経過観察

緊急時に備えるために

本マニュアルの利用にあたっては、下記の点にご留意ください。

- ☆ 保育所・幼稚園・学校では、食物アレルギー対応委員会を設置してください。
- ☆ 教員・職員の研修計画を策定してください。東京都等が実施する研修を受講し、各種ガイドライン※を参考として校内・施設内での研修を実施してください。
- ☆ 緊急対応が必要になる可能性がある人を把握し、生活管理指導表や取組方針を確認するとともに、保護者や主治医からの情報等を職員全員で共有してください。
- ☆ 緊急時に適切に対応できるように、本マニュアルを活用して教員・職員の役割分担や運用方法を決めておいてください。
- ☆ 緊急時にエビペン®、内服薬が確実に使用できるように、管理方法を決めてください。
- ☆ 「症状チェックシート」は複数枚用意して、症状を観察する時の記録用紙として使用してください。
- ☆ エビペン®や内服薬を処方されていない（持参していない）人への対応が必要な場合も、基本的には「アレルギー症状への対応の手順」に従って判断してください。その場合、「エビペン®使用」や「内服薬を飲ませる」の項は飛ばして、次の項に進んで判断してください。

※ 各種ガイドライン

- ・「子供を預かる施設における食物アレルギー日常生活・緊急時対応ガイドブック」（平成30年 東京都福祉保健局発行）
- ・「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年 厚生労働省発行）
- ・「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」（平成20年 財団法人日本学校保健会発行）

この食物アレルギー緊急時対応マニュアルは、東京アレルギー情報navi.

(http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/allergy/publications/print_allergy.html)よりダウンロードできます。



平成25年7月初版 登録番号(29) 38
平成30年3月改定版
【監修】 東京都アレルギー疾患対策検討委員会
【編集・協力】 東京都立小児総合医療センター アレルギー科
東京消防庁・東京都教育委員会
【発行】 東京都健康安全研究センター 企画調整部健康危機管理情報課
電話 03(3363)3487

リサイクル適性(A)
この印刷物は、白紙中に紙へ
リサイクルできます。